

11月25日に市長が政策秘書課職員に話をされた内容についてご紹介します。

就任当初より、基本理念として「3本のフラッグ」を掲げています。

フラッグ1	つながり 「一人ひとりに役割と居場所があるまち」
フラッグ2	あんしん 「助けがなかったら生きていけない人は全力で守る」
フラッグ3	みどり 「ふるさと（生命ある空間）の風景を子どもたちに」

なぜ、マニフェストでなく「フラッグ」なのかと質問を受けることがあります。

マニフェストがあると、職員は市長の言うとおりのゴールを目指すだけになってしまいがちです。私は、「フラッグ」という方向性だけを示すことで、職員自らが考える力が身に付くと思うからです。方向性は示しますが、そこにたどり着くまでの手法は、部長を初めとする職員が悩み、考えることです。

これまでの長久手市は、大型プロジェクトが目白押しでした。職員は、プロジェクトを着実に遂行していく能力には長けていますが、“自ら考える能力”は、まだまだ十分ではないと感じます。

上からの指示を言われるまま実行するのではなく、一度、自分自身で考え、みんなで議論し、不都合や腑に落ちないことがあったら、「ここがおかしい」「こう変えるべきでは」と私に提案してほしいと職員に求めています。

これからの世の中は、市民中心のまちづくりになり、問題をどう解決するのか、決まった答えがない世の中に変わっていきます。決まった答えがないのなら、“自ら考える”ことが、今以上に求められます。

トヨタ自動車の故豊田英二氏のお別れの会に参列させていただきました。その席で、故豊田英二氏が「現場に行きなさい」「自分で考えなさい」と常々おっしゃり、それが今のトヨタ自動車の礎を作ったと繰り返し、繰り返し述べられていました。

私も、職員に「現場に出てほしい」と話しています。窓口対応が忙しい職員からは、「席を離れられない」という声を聞きます。私は、実は窓口も住民の声を聞く「現場」だと思っています。一方、「出ていく現場なんてない」と悩む職員は、市が行うワークショップ等で市民のみなさんと肩を並べ、議論に加わり、市民の生の声を聞いてもらえば良いと思います。それぞれが、そこで聞いた声を汲

み取り、今、市に必要なことを考え、私に提案をしてほしいのです。

3本のフラッグは、役所だけではなく、社会の有り様全体にも通じることです。今の世の中は、子どもも大人も社会の歯車の一つになってしまっています。社会人であれば、「自分が休んでも会社には、全く支障がなかった」という経験がある方も多いでしょう。

そうではなく、「あなたじゃなきゃ、だめなんだ」「あなたが必要なんだ」と言われるまちにしたいと考えています。



市民と職員が一緒になって「幸せのモノサシづくり」について考えるワークショップの様子

市内に住む、リタイアした経験豊かなみなさん。長久手市は、あなたを必要としています。ぜひ、積極的にまちづくりに参加していただければ幸いです。

～市長の話を聞いて～

以前、公務員を対象にした講演で、「公務員は、当初は成績優秀かもしれないが、5年もすると民間の人に追い抜かれる。それは考えないからだ」という話を聞きました。それを聞いて、私も身につまされる思いがしました。

しかし、職員に提案力がある自治体は、たくさんあります。例えば、名古屋おもてなし武将隊は、名古屋市の若手職員の提案から始まりました。今年、同じ職員が、違う取組みを提案し、テレビで特集が組まれるまでの形になっていることを最近知りました。

職員の提案力が、市の強さになると市長はよくおっしゃっています。提案できる土壌は整いつつあります。あとは職員一人ひとりが、“考える”ことです。